

全国学力・学習状況調査 蒲郡市の児童生徒の状況

1 調査実施日 令和7年4月17日（木）

2 教科の状況（全国の平均正答率と比較して）

☆小学校6年生の状況

教科	分 析
国語	下回っている ・全体的な平均の差は、昨年度より縮まったものの、すべての区分で、全国平均を下回った。 ・思考・判断・表現に関わる「読むこと」の区分の、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題では、全国平均とほぼ同じだった。 ・思考・判断・表現に関わる「書くこと」の記述形式の問題では、全国平均を大きく下回った。自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする工夫が重要である。その工夫の仕方とともに、図表やグラフを用いるなどして、目的や意図に応じた書き表し方ができるように指導することが必要である。
算数	下回っている ・全体的な平均は、昨年度とほぼ同様で、すべての区分において、全国平均を下回った。 ・昨年度全国平均を大きく下回った「図形」の区分の問題では、全国平均との差が縮まり、昨年度からの改善がみられた。 ・「数と計算」の区分の、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく下回った。算数の学習では、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察することが大切である。そのために、例えば、小数や分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるように指導することが必要である。
理科	下回っている ・全体的な平均の差は、前回調査（令和4年度）より縮まったものの、すべての区分において、全国平均を下回った。 ・「粒子」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域の、水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題では、全国平均とほぼ同様であった。 ・「生命」を柱とする領域の問題では、全国平均を大きく下回った。「生命」を柱とする領域の中の植物を扱う学習では、知識を他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解することが大切である。そのため、観察や実験したことについて、図に整理したり、関連する用語をまとめたりしながら、知識が身に付くよう指導していく必要がある。

☆中学校3年生の状況

教科	分 析
国語	やや下回っている ・全体的な平均は、すべての区分において、全国平均をやや下回った。 ・思考・判断・表現に関わる「読むこと」の区分の、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく下回った。「推敲」は、文章を書き上げる過程で、読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える行為であり、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて文章を整えることができるようにすることが大切である。文章を読み返す視点を明確にして、身に付けている知識や技能を生かしながら、よりよい文章に整えることができるように指導する必要がある。
数学	やや下回っている ・全体的な平均は、すべての区分において、全国平均をやや下回った。 ・知識・技能に関する「数と式」の領域の、素数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回った。 ・思考・判断・表現に関する「数と式」の領域の、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく下回った。ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘することが大切である。文字を用いた式について、数学的活動を通して、文字を用いた式を具体的な場面で活用できる思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう指導することが必要である。
理科	下回っている ・全体的な平均 IRT スコアは全国平均を下回った。 ・思考・判断・表現に関する「生命」を柱とする領域の、スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回った。 ・思考・判断・表現に関する「粒子」を柱とする領域の、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく下回った。見通しをもって科学的に探究をするためには、疑問や見いだした問題から解決するための課題を設定することが大切である。生徒が疑問や問題から自分の言葉で課題を表現し、見通しをもって探究できるようにするために、「課題の把握」の段階で生徒が疑問や問題を見いだせるような自然の事物・現象と出会わせることが必要である。 ※今回の調査結果は、4月17までに調査を実施した生徒の結果であり、蒲郡市はセキュリティソフトウェアの意図しない影響により、多くの生徒が後日受験している。そのため、この分析は、市全体の傾向を正しく表せていない可能性がある。

3 学習・生活習慣等の状況

全国と比較して割合の高いものと低いものについて代表的なものを紹介します。

○小学校6年生の状況

＜全国と比較してよい傾向がみられるもの＞

- (1) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- (2) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。
- (3) 地域や社会をよくするために何かしてみたい。
- (4) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できる。
- (5) 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。

＜全国と比較して気になる傾向がみられるもの＞

- (1) 毎日、同じくらいの時刻に起きている子が少ない。
- (2) PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成したり、情報を整理したりすることができる子が少ない。
- (3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている子が少ない。
- (4) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる子が少ない。
- (5) 国語の勉強が好き・得意だと思っている子が少ない。

○中学校3年生の状況

＜全国と比較してよい傾向がみられるもの＞

- (1) 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- (2) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- (3) 理科の授業では、観察や実験をよく行っている。

＜全国と比較して気になる傾向がみられるもの＞

- (1) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている子が少ない。
- (2) 将来の夢や目標をもっている子が少ない。
- (3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている子が少ない。
- (4) 自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる子が少ない。
- (5) 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている子が少ない。

4 調査結果をうけて

蒲郡市教育委員会としては、調査結果をさらに分析し、児童生徒の学力を維持、向上させるための具体的な指導法についてまとめ、各学校に示していきます。各学校もまた、学習状況についても改善に向けた取り組みを考え、実施していきます。

5 留意点

この調査で測定できた力は、学力の一部分です。各家庭では、お子さんの得意な内容、不得意な部分を知り、今後の学習に生かしていけるよう励ましをお願い致します。